

Crescendo

M E D I K I T A R T S C E N T E R くれっしえんど

 **メディキット県民文化センター**
MEDIKIT ARTS CENTER
 **宮崎県立芸術劇場**
MIYAZAKI PREFECTURAL ARTS CENTER

vol.120



オルガンとその仲間たちシリーズ2015

Premium Select Concert # 6

小山実稚恵を聴く〜スペシャル・ピアノ・リサイタル〜

吉田小夏(青☆組)×永山智行(演劇ディレクター)対談

オルガンとその仲間たちシリーズ2015

真夜中のミサ〜フランス・バロック音楽の雅美〜

永松先生の芸能さんぽ

'15みやざきの舞台芸術シリーズIII



Premium Select Concert # 6
小山実稚恵を聴く

©ND CHOW



©伊藤華織

青☆組『海の五線譜』

幸せな時間をありがとう

シルバーウィークの最後、9月23日の「島田歌穂・島健ピアニトリオ」の演奏会の後、お帰りになるお客様のこれ以上ない笑顔を見ながら私は何とも幸せでほっとした気分になりました。「レ・ミゼラブル」を筆頭にミュージカルの世界で国際的な評価を得ている歌穂さんの歌は圧倒的で、ディズニーやミュージカルの名曲とジャズナンバーを軽妙なおしゃべりを交えて歌いあげられ、お客様を魅了し尽くしたひとときになったからです。

演劇ホールが一杯になるお客様の大部分は、普段のクラシック演奏会とは違う方々でした。アンケートにお答えいただいた感想を一部紹介しますと、・40代男性～歌穂さんの表現豊かな声の魅力、島さんたちの息のあった演奏の魅力。親子席で一緒だった小1の息子もとても満足した様子でした。・50代女性～素晴らしい歌声と演奏に感動しました。26才の長男と20数年ぶりのコンサートでこんなに素敵な一日を送れて嬉しい限りです。・50代女性～今日は主人の誕生日に二人で記念に来させてもらい、嬉しい最高の日になりました。幸せな時間をありがとう。といった家族で楽しんでいただいた方々の声が目立ちました。なかには、・40代女性～こんなリーズナブルなジャズライブをまた企画してください。・60代男性～クラシックだけでなく本日のような幅広いジャンルのコンサートを今後も続けて欲しい。という声もあり、少しずつ新しい取り組みを進めようとしている私たち劇場の職員には実に励まされるコンサートでした。

今回のコンサートは、歌穂さんとご主人の島さんに企画の段階からプログラムの構成や曲目についてご相談し、今までの演奏会とは趣向を変えてやっていただき、劇場にとっても一緒に作り上げたものでした。これまでのクラシックを聴きに來られるお客様も、初めて劇場に來られるお客様もそれぞれに楽しみ感動していただけるものにしたという気持ちからです。

劇場は20年余をかけてクラシックの殿堂としての存在を確かなものにしてきました。そのことを大事にしながらも、それ以外の領域で新しい取り組みに挑戦し、今まで劇場に足を運んだことがない方達に少しでも多く来ていただきたい、そして「幸せな時間をありがとう」という経験をさせていただくことができれば・・・歌穂さんのコンサートがその第一歩でした。

公益財団法人宮崎県立芸術劇場理事長 佐藤寿美

🎹 ピアノをはじめたきっかけを教えてください。

家にあったおもちゃのピアノが大好きで、それでばかり遊んでいて「本物のピアノがほしい、ほしい」となったり、6歳の誕生日にと両親に買ってもらったことがピアノを習うきっかけとなりました。

🎹 好きな作曲家を教えてください。

その時々で変わるので、なんとも言えませんが、バッハやベートーヴェンはやはり大好きです。最近ではシューベルトが最愛の作曲家で、作品の魅力の虜になっています。と言いつつ、ラフマニノフやショパンも好き…。選べませんね(笑)。バッハの音楽は「生命体に生まれてよかった」、ベートーヴェンの音楽は「人間に生まれてよかった」、ラフマニノフやショパンの音楽は「ピアノが弾けてよかった」と思います。

🎹 ピアノ曲以外でよく聴く音楽はありますか？

オーケストラ、室内楽などはよく聴きます。これ、という決まった時に聴くわけではないのですが、ふとした時に聴いています。実は、文楽の太禰ふとせおの音が好きで、耳にすると心にじ～んと沁みます。

🎹 普段の生活の中でリラックスするのは、どのような時ですか？

おいしい物を食べている時が一番リラックスする時でしょうか。何を食おうかと考えている時や、さあ食おう、とケーキなどの最初の一口目を口に入れる瞬間には最高の幸せを感じます。それから、飼い猫のララと遊んでいるときもリラックス！です。

🎹 演奏活動を続けるうえで大切にしていることは何ですか？

最初にピアノを始めたときの、「ピアノが好きだな」という気持ちを持ち続けることです。初めての演奏会の日の気持ちも忘れないように、といつも思っています。

🎹 音楽情報誌『音楽の友』での連載「脱力の極み」では、様々な分野の方と対談されていますが、印象に残っているエピソードを教えてください。

分野が違うのですが、真理の部分や、こだわり等は、結局何の世界でも共通するということを感じています。お互いに知らない分野の話なのですが、感覚や感性で感じ取る深い部分など、こうやりたい、と思うことに向かって、自分の想いを信じてやり続けているのだ、とつくづく感じます。もう一つ、取り組んでいるものが何であっても、辛くても、結局はそのことが好きで好きでたまらない、ということです。

🎹 ライフワークとして東日本大震災の被災地でコンサートをされていますが、続けているモチ

現在、もっとも注目を集める ピアニストの一人、 小山実稚恵の素顔に迫る！

12月に開催するPremium Select Concertの第6弾は、
今年でデビュー30周年を迎えてなお輝きを増す
ピアニスト小山実稚恵さんのソロリサイタルをお届けします。
公演に先がけ、小山さんの素顔に迫る一問一答と、
宮崎公演によせたメッセージをいただきました！

Message 30周年の年に宮崎でリサイタルができることをとても嬉しく思っています。

宮崎県立芸術劇場では、これまで2度演奏をしていますが、響きの素晴らしさが印象に残っています。2回の公演はいずれも宮崎の音楽祭で、東京カルテットとの共演でした。ですので、今回初めてピアノ・ソロ作品を演奏します。

プログラムの始まりはシューベルトの『即興曲』から。今、私が最も愛している作品です。その一曲一曲に込められた、たとえようのない優しさ慎みしさは心に響き、演奏していて涙が出そうになります。繊細なシューベルトから一転、次は『シャコンヌ』です。大聖堂のステンドグラスに燦々と降り注ぐ光。バッハのヴァイオリンの響きは、ブゾーニの編曲によって壮大なピアノの音世界となります。後半はまずリストの名曲『愛の夢』、そして『エステ荘の噴水』。

陽光が噴水に反射して水しぶきがキラキラと輝く、色彩豊かなピアニズムの中、リストが水に命を吹き込みます。そして最後はショパンの作品です。若きショパンの生き生きとした『アンダンテ・スピナートと華麗なる大ポロネーズ』、そしてショパンが恋を音に託したラブレターのような『ラルゲット』、その美しさはロマンの極みともいえるでしょう。

プログラム最後は『英雄ポロネーズ』です。2011年の東日本大震災の後、被災地の状況が最も苦しい時期に、希望に向かって一步を踏み出すようにと演奏していた作品でもあります。プログラム前半は外から内に向かってくる光、そして後半は内から外にあふれる光。そんな意識を感じていただければ幸せに思います。

小山実稚恵

© ND CHOW

バージョンになっているものは何ですか？

自分自身が東北出身なので、東日本大震災は他人事とは思えません。続けていくことに意味があるというよりも、自分のできること、少しでも力になれると思うことをやり続けるだけです。

🎹 30年の演奏活動の中で、思い出深い出来事を教えてください。

30年間の演奏活動の中でも、これまで私の生きてきた中でも、東日本大震災のショックはとて大きかったです。悲劇を目の当たりにしながら、なすすべもなく、自分が何と無力な事かと思いました。こうやって好きなピアノを演奏することができるということの幸せを本当に感じます。

🎹 「小山さんのようなピアニストになりたい！」と頑張っている未来のピアニストに向けて、ひとことお願いします。

私のように・・・、と思いますが(笑)
ピアノを好きで居続けることでしょうか。ピアノを弾く時、とにかく自分の想いをピアノに託すこと。何百年と生きてきた作品は当然素晴らしいのですから、その作品をどのように思い、どのように気持ちを乗せるのか。最後はそれしかないと思っています。

Profile 小山実稚恵(こやま みち恵)

人気・実力ともに日本を代表するピアニスト。今年デビュー30周年を迎え、日本各地で数多くの記念公演を開催。チャイコフスキー国際コンクール、ショパン国際ピアノコンクールの二大コンクールに入賞以来、今日に至るまで、コンチェルト、リサイタル、室内楽とあらゆるジャンルにおいて、常に第一線で活躍し続けている。2011年の東日本大震災以降、東北出身ということもあり「被災地に生の音を届けたい」との強い思いで、岩手、宮城、福島の子供や公共施設等で演奏を行っている。この被災地活動は小山のライフワークでもある。

公演情報
Premium Select Concert#6 『小山実稚恵を聴く ～スペシャル・ピアノ・リサイタル～』 12月5日(土) 開場13:30 開演14:00 【会場】 アイザックスターンホール 【出演】 小山実稚恵(ピアノ) 【曲目】 バッハ/ブゾーニ: シャコンヌ リスト: 愛の夢 第3番 ショパン: ポロネーズ 第6番 変イ長調 作品53「英雄」 ほか 【料金】 一般3,000円【会員2,700円】 U25割1,500円 親子割3,500円



宮崎を愛する
 2人の特別対談

永山 智行
演劇ディレクター

吉田 小夏
青☆組

吉田小夏(よしだ・こなつ)
 劇作家・演出家、青☆組主宰、青年
 団演出部所属。時空を自由に行き
 来する、演劇的空想性に溢れた演
 出と、日本語の音楽性にこだわった
 詩的なセリフを特徴とする。宮崎と
 の関わりは、市民参加企画『世界は
 踊る～ちいさな経済のものがたり～』
 宮崎版(2010年)の共同演出、
 リーディングナウ2012『時計屋の
 恋』(2012年)の作・演出に続いて、
 今回で3度目。

満を持して、劇団「青☆組」宮崎初登場！

劇団「青☆組」の主宰として活動する劇作家・演出家の吉田小夏さんと、永山智行(演劇ディレクター)による特別対談が実現しました。過去2度にわたり宮崎での作品づくりに携わってきた吉田小夏さん。11月に上演する作品は、宮崎をモチーフにした新作『海の五線譜』です。宮崎での思い出や、劇団のこと、作品について語ってもらいました。

まず、お2人が出会った時のことから伺いたいのですが、覚えていらっしゃいますか。

永山 初めて会ったのは羽田空港だね。もちろん偶然じゃないですよ(笑)。2010年にパスカル・ランベール(フランス)作・演出の『世界は踊る～ちいさな経済のものがたり』という作品を、宮崎でも上演することになって、平田オリザさん(青年団主宰)から、共同演出に小夏さんを入れたいと紹介された時だね。

吉田 オリザさんが忙しすぎて、大阪に戻る乗継便を待つ間に話そうって。永山さんも飛行機で来るし、だったら羽田空港が一番いいってことになったんですよ(笑)。でも本当に時間がなくて、会ってすぐにオリザさんと永山さんが重要な話を具体的に詰めたので、その様子を見守る感じだったと思います。

永山 小夏さんは、あの時からずっと印象が変わらないですね。「ほわん」としていて宮崎に合うというか、宮崎と同じ空気を感じるのかなあ…。

『世界は踊る～ちいさな経済のものがたり』の時は、どのくらい宮崎にいらっしゃったんですか？

吉田 ワークショップで何回か来ていて、最後は3週間くらい宮崎にいました。実は生まれて初めての滞在型制作だったんです。当時は正直不安でいっぱいでしたが、宮崎の方は皆さん優しく

温かく迎え入れてくれて…本当に感動しました。宮崎に来ると肩の力が抜けますね。

吉田さんが率いる劇団「青☆組」の宮崎公演が決まったいきさつを教えてください。

吉田 永山さんから「やりませんか」とお声がけいただいて。

永山 出会ってそこで終わりじゃなくて、そこからどうつながっていくかということを大事にしたいなといつも思っていて。2010年の『世界は踊る』が最初で、2012年の「リーディングナウ」という新しい企画をはじめる時に、つながっていたいなと思って演出をお願いしました。だから、次は小夏さんの劇団の作品を持って来てもらうという流れが一番いいかなと。過去の市民参加企画で関ったメンバーは「青☆組」の公演が観たいだろうし、小夏さんは宮崎にぴったりだしね(笑)。

吉田 そうだったんだあ(笑)。

永山 「青☆組」ってツアーをしてこなかった劇団だからね、わがまま言っちゃいました。

吉田 ツアーをしたくないというわけじゃないんですよ(笑)。劇団化したのが遅かったので、全員が30代以上で藤川さん(劇団員)は67歳ですし、子育てしている劇団員もいるので、なかなかツアーに行くチャンスが見つげづらかったただけなんです。宮崎は自分の節目の時に来ることが多くて、思い入れのある地なので、劇団の初ツアーで宮崎に来られることになって幸せです。

永山 宮崎にとっても、初めてのツアーの場所が宮崎になるというのは、すごく幸せなことです。

『海の五線譜』は、宮崎をモチーフにした作品ですね。

吉田 宮崎のモチーフって何だろうと思ったときに、やっぱりまず「海」があって、私自身が横浜と鎌倉で育ったので、太平洋でつ

ながっているんだよねあ…というイメージがあったんですね。これまでの作品にも港町とか鎌倉とかよく出てくるんですけど、何か自分とつながる接点の1つとして、海辺の町というのを結び付けてみたいなあ。あと、夫婦の物語が書きたいと思っています。別に宮崎の名産が夫婦なわけじゃないんですけど(笑)。両親が結婚した時期に、宮崎が新婚旅行のメッカだったのも面白いし、年齢的にも結婚を意識するようになってきたので。

永山 宮崎が舞台のシーンとかもあるの？

吉田 回想だけに留めるか、実際宮崎に足を運ぶか悩んでいるところです。宮崎がずっと舞台になっている話ではないけれど、家族の春夏秋冬の鮮やかな思い出として宮崎の何かがあるというように話を書きたいと思っています。

宮崎出身の日高啓介さん(FUKAIPRODUCE羽衣)も出演されます。永山さんも「演劇・時空の旅」シリーズの『ゴドーを待ちながら』と一緒に作品を作られています。どのような俳優さんですか。

永山 色気があると思うなあ。どんな人にでも柔らかく接していくとか何でも受け入れていくような、そういう人間としての魅力がありますね。

吉田 以前から一緒にいたいと思っていて、どういうタイミングでお誘いしたらいいんだろうと思っていました。今回、日高啓介さんが宮崎出身ということがわかり、このタイミングなら「うん」と言うに違いないと(笑)。日高さんは、居てくれるだけですごく場がしまる感じがするし、誰かと並んでいるだけで何か物語を感じるんですよね。年を重ねるほど魅力を増している俳優さんだと思います。

永山さんからみた、劇団「青☆組」の魅力って何だと思われませんか？

永山 年齢もバラバラで大人の劇団なので、若者のノリでやっていないし、ひとりひとり普通に生きているということを大事にしながら舞台上に立っている感じがします。「青☆組」とか小夏さんの

作品は、普通の人々が普通の暮らしの中で感じる寂しさだったりちょっとした喜びだったりとか、そういう本当に地に足がついた感じで描かれているイメージがあるし、宮崎の人にとっては、特別なものではなくて私達の生活の延長線上に舞台があるという風に受け取っていただけだと思います。

吉田 嬉しい、メモっとこう！

永山 メモらなくていいよ(笑)

作品づくりで、大切にされていることは何かありますか？

吉田 その時々で違うというか、実はその都度迷うところでもあるんですよ…。

永山 作品を作るたびに、考えたり迷ったりするということがとても誠実だと思いますね。

吉田 観ている人にどういう風に届くんだろう…みたいなことは注意深く考えよういつも思っています。劇団化してからは、演出家として俳優の魅力を必ず引きだしたいという思いが強かったんですが、最近は、作家寄りに戻ってきていて、今回は特に「自分は今何をみているんだろう」という事を大切にしたいと思っています。

最後にメッセージをお願いします。

吉田 皆さんと再会できるのを楽しみにしていますし、第二の故郷にお土産を持って帰ってきてくれたと思ってもらえるように頑張りたいと思います！



劇場そばの文化公園にて撮影

出演者で宮崎出身の俳優、日高啓介さん(FUKAIPURODUCE羽衣/東京)からメッセージが届きました！



Message 宮崎のみなさま、こんにちは。宮崎出身で東京を中心に舞台俳優をやっている日高啓介です。私の名前に覚えがある方もいらっしゃるかもしれません。実は私、今年の2月に県立劇場主催の時空の旅シリーズに出演しておりました。また宮崎でお芝居が出来ることをとても幸せに思います。今回は、東京でも人気の劇団、青☆組さんの新作『海の五線譜』というお芝居に出演いたします。海にまつわるちょっと切ないお話です。私も宮崎生まれ宮崎育ちなので、海は大好きです。どうぞみなさま劇場に遊びにいらしてください。

公演情報	
青☆組『海の五線譜』	11月28日(土)開場18:30 開演19:00 / 29日(日)開場13:30 開演14:00
【会場】	イベントホール 【作・演出】吉田小夏
【出演】	荒井志郎 福寿奈央 藤川修二 大西玲子(以上青☆組) 小瀧万梨子(青年団) 日高啓介(FUKAIPRODUCE羽衣)※宮崎出身
【料金】	全席自由 一般3,000円[会員2,700円] U25割1,500円 なかよしチケット(2人1組)5,000円

真夜中のミサ

～フランス・バロック音楽の雅美～

Message 劇場のオルガンやチェンバロのまわりにはいろいろな人が集まって生まれるすてきな音楽を、ということで毎年少しずつお届けしている「オルガンとその仲間たちシリーズ」、今年で何年目になるでしょうか。メサイア、古典派、バッハ、イタリア・バロック、などと毎年様々なテーマでお送りしてきましたが、今年はフランスのバロック音楽を取り上げることにしました。中央集権国家であった当時のフランスのありようを反映してか、ほかの国の音楽に比べ、よりシステムティックでまた画一的であるかのように感じられることもあるけれど、色彩豊かな音色、柔軟さと包容力、そして思わず踊りだしたくなるような独特の親しみといった魅力はフランスのバロック音楽ならではのものと言えるでしょう。今回のコンサート、前半はオルガン曲のほかに、リコーダーを中心としたアンサンブル、またリュートと歌を中心とするフランス独特の美しい声楽曲、そしてルベルの『舞踏さまざま』など、多彩なフランス・バロックの作品をお楽しみいただき、後半はクリスマスにちなんだシャルパンティエの名作『真夜中のミサ』を公募合唱団の皆さんとお届けします。リズムの取り方が独特でなかなか難しいけれど、あちこちに素敵な和音が仕掛けられたとても美しい作品です。当時のヨーロッパ中の宮廷が憧れた、そのおしゃれな響きを存分に味わっていただけたらと思います。ぜひ劇場に足を運びくださいませ。

大塚直哉

当時のヨーロッパ中の宮廷が憧れた、そのおしゃれな響きを存分に……



大塚直哉 (企画・監修/オルガン事業アドバイザー)

教えて楽器のこと



リコーダー奏者の山岡重治さんに、古楽器「リコーダー」について教えていただきました。

リコーダーはヨーロッパで1300年頃から中世、ルネサンス、バロック時代まで最も普及した管楽器です。名前もたくさんあり、イギリスでは「リコーダー」、イタリアでは「フラウト・ドルチェ」、フランスでは「フルート・ア・ベック」、ドイツでは「ブロック・フレーテ」と呼ばれます。当時フルートといえばリコーダーを指していました。庶民から貴族まで、ソロやアンサンブルで多様な音楽を楽しめる人気の楽器でした。大ききの種類も多く、小さい物は15cm位から、最大のもの2m60cm以上のもので作られました。オリジナルのリコーダーの音色は深く暖かみがあり、現在の教育楽器としてのリコーダーのイメージとはかなり違っています。



私がこの楽器をやるきっかけになったのは、中学生のとき、ブラスバンドの先生がヴィヴァルディのリコーダー協奏曲を聴かせてくれたことでした。人生が変わってしまった瞬間でした。山岡重治(リコーダー)

「真夜中のミサ」では、宮崎出身・在住者を中心に結成された合唱団が登場します。

ソリストを代表して、松本英樹さん(バス)にコメントをいただきました。とても素敵な曲なのに、演奏会で鑑賞することや、演奏する機会は多くない「真夜中のミサ」を、アイザックスターンホールですてきな空間で、しかも古楽器アンサンブルの皆さんと共演できるという魅力に誘われて参加しました。他にも、フランス・バロック音楽の様々な曲が散りばめられている今回のプログラムをとても楽しみにしています。



「真夜中のミサ」合唱練習の様子

永松先生の 芸能さんぽ

～舞台芸術のルーツを訪ねて～

十五夜踊り

今年の十五夜は9月27日(日)でした。あいにくの荒れ模様の天気で、どこの小学校も運動会を強行したものの残念ながら中断したところも多かったようです。この時期、運動会シーズンではありますが、南九州の人々には旧暦八月には特別な思いがあります。作物の収穫を迎えながらも、強力な台風の襲来がないことも不安が募ります。そこで、南九州から沖縄地方にかけての人々は、旧暦八月に祈りをこめて様々な芸能を演じました。綱引き、エイサー、八月踊り、棒踊り、臼太鼓踊りなど、思い思いの自慢の芸能を神様に奉じたのです。新富町の水沼神社では午前中、社殿で神楽を奉納し、午後からは庭で、元禄坊主踊りという山伏姿の人々が踊る風流踊りが演じられます。十五夜踊りの名称で親しまれ、境内には赤い提灯がたくさん下げられています。時折、山伏役が観客席に飛び入り、子供や若い女性たちを担いで踊りのなかに連れて行くことが見られます。椎葉村大河内や西都市平小牧、さらには、宮崎市内の山崎町の臼太鼓踊りも

十五夜踊りの名が今日も受け継がれています。江戸時代の『佐土原藩島津家日記』にも「十五夜水神踊」のことが記されており、十五夜踊りは水神祭りと関係していることがわかります。もう収穫目前の時期ですから、作物に水がどうしても必要という時期ではないので、台風などで水神が荒れないように祈願するのが習わしとなったと考えるのが自然でしょう。この時期さえなんとか乗り越えられれば、無事、一年が過ぎせる。もし、台風ですべてが流されてしまったなら、いままでの苦労がすべて水の泡と消えてしまう、そうした切実な思いが込められているのです。十五夜芸能の舞台はまさに南九州の大地です。多種多様な芸能を今も県内各地、南九州から沖縄にかけて楽しむことができます。

最後に、お月見のことを「十五夜」と呼び慣わされているのは、どこの地方だと思われませんか?実は、九州特有の現象なのです。本州以東では「お月見」が主流となっています。



「十五夜踊り」

執筆者プロフィール 永松 敦 1958年大阪府生まれ。総合研究大学院大学文化科学研究科国際日本研究専攻博士後期課程修了。博士(学術)。ながまつあつし 椎葉民俗芸能博物館・副館長などを経て、現在、宮崎公立大学人文学部・教授。

15みやざきの舞台芸術シリーズ

音楽・演劇・舞踊などの舞台芸術活動に取り組んでいる本県出身者を応援するシリーズ!



今年度シリーズ第3弾は、静岡を拠点に活動しているカンパニー「ユニークポイント」の代表作で、昨年韓国でも上演した『アイ アム アン エイリアン』をお届けします。

出演者のナギケイスケさん(宮崎出身)から公演に寄せてメッセージが届きました!

Message ナギケイスケ(ユニークポイント/静岡) ※宮崎出身

私が宮崎で最後に作品を上演したのは、確か2001年?だったと思いますが、第1回の「みやざき演劇祭」でした。今回と同じ、宮崎県立芸術劇場イベントホールにて、一人芝居を上演しました。あれから10年以上の月日が経ちました。東京でユニークポイントという劇団に出会い、いまだに演劇を続けています。久しぶりに宮崎で舞台に立てるということで、嬉しい限りです。劇団の旗揚げからの中心メンバーの山路誠さん(今回の企画提案者)も宮崎出身で、今思えば山路さんと出会わなかったら、ユニークポイントにも参加していなかったかもしれません。

話し合いによって決定しなければならない。——これはもちろんフィクションです、しかし、2010年に改正臓器移植法が施行されて15歳以下の子供が脳死状態になった場合の臓器提供が可能になり、実際に数例臓器移植が行われました。これは現実です。わたしたちは、他の誰かの生死について、決めることができるのでしょうか?この問いは、舞台に立つ我々にも、観客として客席に座るみなさんにも、投げかけられています。難しい話に聞こえるかもしれませんが、ぜひ、話し合いの行く末をご覧になっていただきたいです。劇場でお待ちしております。

劇団プロフィール

1999年5月、「ユニークポイント」名義で活動を開始。2004年「トリガー」で山田裕幸(代表)がテアトロ新人戯曲賞を受賞。05年「あこがれ」で初の韓国公演を敢行。06年、東京板橋にアトリエセンティオを開設。鳴海康平(第七劇場)と共同で運営し、演劇祭アトリエでの『ロジック』公演を企画・実施する。15年4月、劇団の拠点を静岡に移す。



「アイ アム アン エイリアン」初演

関連企画 公演前日には、公開レッスンとヴァイオリン体験教室を開催! 詳細は裏面▶▶▶

公演情報
オルガンとその仲間たちシリーズ2015 真夜中のミサ ~フランス・バロック音楽の雅美~
12月20日(日) 開場13:30 開演14:00 【会場】アイザックスターンホール
【出演】大塚直哉(オルガン、チェンバロ、指揮) 野々下由香里(ソプラノ) 山岡重治(リコーダー) 古楽器アンサンブル オルガンとその仲間たちシリーズ合唱団
【曲目】F.クーブラン:「2つのオルガンミサ」から シャルパンティエ:真夜中のミサ ほか
【料金】全席指定 一般2,500円[会員2,200円] U25割1,500円 親子割3,000円

～ラジオ番組のお知らせ～

毎週土曜日の朝は、
MRTラジオ

『晶子と県劇「知っ得!なっとく!」』
で、公演情報をゲットしよう!

番組では、当劇場が主催する公演の詳しい内容や、観どころ聴きどころをお届けしています。チケットプレゼントも番組の中でご紹介しているので、ぜひチェックしてみてください!



前田晶子
(パーソナリティ)

《番組情報》

MRTラジオ AM936kHz

番組名『晶子と県劇「知っ得!なっとく!」』

放送日時 毎週土曜日の7:40～7:55(15分)

パーソナリティ 前田晶子(フリーアナウンサー)

Attention(ご注意)

- ◎記載情報は変更になる場合があります。
- ◎割引サービスの詳細は、劇場HPをご覧ください。
- ◎当日券が出る場合は、一般チケットのみ500円増(一部公演除く)になります。

11月1日(日) 開場14:15 開演15:00 アイザックスターンホール	ベルリン・ドイツ交響楽団 全席指定 SS席・S席 完売 A席7,000円[会員6,300円]～D席2,000円[会員1,800円] U25割(C席のみ)1,500円 親子割(A席のみ)7,500円	チケット発売中
11月8日(日) 開場13:15 開演14:00 演劇ホール	フィガロの結婚 ～庭師は見た!～新演出 指揮・総監督:井上道義 演出:野田秀樹 全席指定 全席完売	チケット完売
11月28日(土) 開場18:30 開演19:00 29日(日) 開場13:30 開演14:00 イベントホール	青☆組『海の五線譜』 作・演出:吉田小夏(青☆組) 出演:荒井志郎 福寿奈央 藤川修二 大西玲子(以上、青☆組) 小瀧万梨子(青年団) 日高啓介(FUKAIPRODUCE羽衣) 全席自由 一般3,000円[会員2,700円] U25割1,500円 なかよしチケット(2人1組)5,000円	詳細はP3・4▶▶▶ チケット発売中
12月5日(土) 開場13:30 開演14:00 アイザックスターンホール	Premium Select Concert#6 デビュー30周年記念 小山実稚恵を聴く ～スペシャル・ピアノ・リサイタル～ 全席指定 一般3,000円[会員2,700円] U25割1,500円 親子割3,500円	詳細はP1・2▶▶▶ チケット発売中
12月20日(日) 開場13:30 開演14:00 アイザックスターンホール	オルガンとその仲間たちシリーズ2015 真夜中のミサ ～フランス・バロック音楽の雅美～ 全席指定 一般2,500円[会員2,200円] U25割1,500円 親子割3,000円	詳細はP5▶▶▶ チケット発売中
1月16日(土) 開場10:30 開演11:00 アイザックスターンホール	パイプオルガン プロムナード・コンサート vol.149 土曜日の朝はオルガンでランチを…『オルブラ』 オルガニスト:青木早希 全席自由 4歳以上500円 なかよしチケット(4歳以上2人1組)700円 ※4歳未満は入場不可	チケット発売中
1月28日(木) ランチタイム・コンサート 開場11:00 開演11:30 ソフレ・コンサート 開場18:30 開演19:00 演劇ホール	シリーズ(大人のためのコンサート～なるほどクラシック講座)vol.4 ラヴェルを巡る音楽～100年前のパリって…? 「ランチタイム・コンサート」～気軽に楽しむお昼の60分～ 全席自由 一般1,000円(会員800円) 「ソフレ・コンサート」～じっくり楽しむ夜の100分～ 全席自由 一般2,000円[1,800円] U25割1,000円 親子割2,500円	チケット発売中

出演者を講師に迎えた
各楽器の公開レッスン・ヴァイオリン体験教室を開催!

オルガンとその仲間たちシリーズ2015 関連企画



公開レッスン

【開催クラス】ヴァイオリン、チェロ、フランス古典歌曲、リコーダー
※課題曲等については、劇場HPをご覧ください。

【受講料】1人2,000円

【聴講料】500円(『真夜中のミサ』公演のチケットをお持ちの方は無料)



こどものためのはじめてのヴァイオリン体験教室

【対象】ヴァイオリン未経験の3歳～小学生
※楽器がなくても参加できます。(楽器協力:エフジー弦楽器)

【参加料】500円

【定員】各回(30分)3名 計12名 ※応募者多数の場合は抽選

12月19日(土) 10:00～12:00

場 所 メディキット県民文化センター 地下練習室

応募期間 11月13日(金)必着

※郵便・FAX(所定申込み用紙)、または劇場ホームページからお申し込みできます。

申込み・問合せ先

公益財団法人宮崎県立芸術劇場「公開レッスン・ヴァイオリン体験教室」係

〒880-8577 宮崎市船塚3丁目210番地 TEL.0985-28-3208 FAX.0985-20-6670 URL.http://www.miyazaki-ac.jp

お問合せ